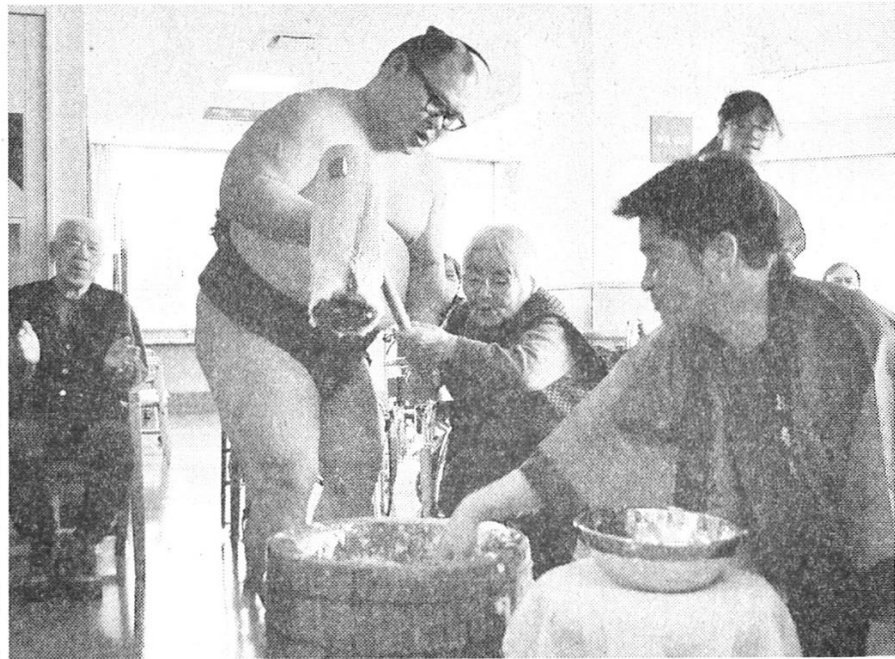


力士から生きる力

川口の高齢者施設慰問 入間川部屋の2人が餅つき



磋牙司さんと餅をつくお年寄り＝川口市安行

さいたま市中央区の「入間川部屋」の磋牙司(さがつかさ)さん(36)と、宮乃富司(みやのふじ)さん(20)ら2力士が6日、川口市安行の介護老人保健施設「グリーンビレッジ安行」(高瀬通汪施設長)を慰問に訪れ、お年寄りと一緒に餅つきを楽しんだ。高齢者150人が入所して暮らすほか、通所リハビリ施設に毎月延べ900人が通う同施設。2人の力士は餅をついたり、相撲の技を実演で見せたり、相撲甚句を歌ったりしてお年寄りたちを楽しませた。

2力士は1階のリハビリコーナーのほか、2、3階の入所者たちのコーナーを回りの問した。

「どいでもお年寄りが笑顔を迎えて、大歓迎。力士と握手をして喜ぶ姿はまるで少女に戻ったようだった。きれいな体だね」「いつから相撲やっつてるの」など、自分の

子や孫に話すように親しみを込めて質問していた。

磋牙司さんに手伝ってもらって餅つきをした福島ヨシさん(86)は「頑張つてね」と握手。磋牙司さんらは「お元気でね」「長生きしてね」とお年寄りにエールを送った。

週に3日、鳩ヶ谷地区からリハビリに通う元会社員中村道義さん(70)は「テレビで見ると違った。お相撲さんは大きいのにびつくりだ。楽しかった。歌もつまんだね」

と感心していた。

宮乃富司さんに「お姫様だっこ」してもらった同施設の音楽療法師、小林恵子さん(58)は「びんつけ油のいい香りがした。体が意外と硬い。もう思い残すことはありません」と感激していた。

医師でもある高瀬通汪施設長(71)は「素晴らしい元気をもらった。私たちに生きる力を頂いた感じです」と話した。